2025 年 2 月 3 日

院外処方箋における問い合わせ簡素化の Protokol

盛岡赤十字病院 薬剤部

(処方変更に関わる原則)

- ① 先発医薬品において「変更不可」の欄にチェックがあり、かつ保険医署名欄に処方医の署名又は記名・押印がある場合は、処方薬を後発医薬品に変更できない。
- ② 「含量規格変更不可」又は「剤形変更不可」の記載がある場合は、その指示に従う。
- ③ 処方変更は、各医薬品の適応及び用法用量を遵守した変更とする。また、医薬品の安定性や溶解性、体内動態を十分に考慮し、利便性が向上する場合に限る。
- ③ 患者に十分な説明（適正な服用・使用方法、安定性、価格等）を行い、理解と同意を得た上で変更する。
- ④ 取り決めにに基づき疑義照会を行わずに変更調剤した場合、薬局では処方箋に「盛岡赤十字病院院長との合意による変更」と記載し、合意による変更である旨を明記することが望ましい。

1. 各種問い合わせ窓口、受付窓口

○処方内容等に関する疑義照会(診療、調剤に関する疑義・質疑に関すること)

平日:9:00~17:00(代表 019-637-3111)(内線:415(薬剤部))

17:00 以降 (緊急の場合のみ連絡)

○保険(保険番号、公費負担などに関すること)

平日:9:00~17:00(代表 019-637-3111) (内線:401 (医事課))

2. 処方変更・調剤後の連絡

処方変更し調剤した場合は、その内容を「院外処方箋における問い合わせ簡素化の Protokol 報告書」を用いて FAX(019-637-3801)にて薬剤部に連絡してください。

ただし、一般名処方に基づいて調剤した場合の情報提供書、および後発医薬品への変更報告書は不要です。

3. 問い合わせ不要例 (ただし、麻薬に関するものは除く)

① 成分名が同一の銘柄変更

例: アムロジン錠 5mg → ノルバスク錠 5mg

② 内用薬における別規格製剤がある場合の処方規格の変更

例: ガスター錠 10mg 2 錠 → ガスター錠 20mg 1 錠

リクシアナ 30mg 0.5 錠 → リクシアナ錠 15mg 1 錠

ワーファリン錠 1mg 2.5 錠 → ワーファリン錠 1mg 2 錠

ワーファリン錠 0.5mg 1 錠

・安定性、利便性の向上のための変更に限る

③ 内用薬の剤形の変更

ア) 錠剤（普通錠）、錠剤（口腔内崩壊錠）、カプセル剤での剤形変更

例：アレロック OD 錠 5mg → アレロック錠 5mg

イ) 散剤・顆粒剤・細粒剤・末剤・ドライシロップ剤（固形剤調剤の場合）での剤形変更

・ア)とイ)での剤形変更は不可

・必ず患者に説明後、同意を得て変更すること

・用法・用量が変わらない場合のみ可

・安定性、溶解性、体内動態等を考慮して行うこと

・外用薬での変更は不可（軟膏⇔クリーム剤等）

④ 貼付剤や軟膏剤等の包装・規格変更

例：ヒルドイド軟膏 25g 2 本 → ヒルドイド軟膏 50g 1 本

イドメシニコールワップ 5 枚入/袋×7 袋 → イドメシニコールワップ 7 枚入/袋×5 袋

・合計処方量が変わらない場合のみ可

・貼付剤の変更ではサイズが同等の場合のみ可

⑤ アドヒアランス等の理由による半錠、粉碎あるいは混合すること、あるいはその逆（規格追加も含む）。ただし、抗腫瘍剤を除く。

逆の場合の例：（粉碎）ワーファリン錠 1mg 2.5 錠 → ワーファリン錠 1mg 2 錠

ワーファリン錠 0.5mg 1 錠

・安定性、溶解性、体内動態等を考慮して行うこと

・無料で行う場合のみとし、自家製剤加算等、嚥下困難者用製剤等の加算を算定する場合は、必ず疑義照会を行うこと

⑥ 処方薬剤の一化化調剤

<理由の例>

○アドヒアランス不良で一化化による服薬向上が見込まれる

○身体特性により錠剤等を直接被包から取り出すことが困難

・安定性を考慮して行うこと

・無料で行う場合のみとし、外来服薬支援料2を算定する場合は疑義照会を行うこと

・処方箋上に一化化指示があるにもかかわらず一化化を行わなかった場合、必ず医師に疑義照会等にてその理由を報告すること

⑦ その他、合意事項

ア) 疑義照会件数減少に向けた対応

疑義照会時、照会した内容について継続して変更調剤が可能である医師の了承を得られた場合、次回調剤以降において事後報告を可能とする。

イ) 漢方、メトクロプラミド、ドンペリドン製剤において、添付文書に記載されている用法と異なる指示だった場合、患者のコンプライアンス上の理由として処方していることを薬歴簿上に明記した上で、「医師了承済」として対処して構わない。

ウ) ビスホスホネート製剤等の週1回あるいは月1回服用の製剤が、連日投与の他の処方薬と同一の日数で処方された場合に関して、処方日数の適正化を可能とする。

エ) 「1日おきに服用」と指示された処方薬が、連日投与の他の処方薬と同一の日数で処方されている場合の処方日数の適正化（処方間違いが明確な場合）

例：(他の処方薬が 30 日分処方の時)

バクタミン配合錠 1 錠 分 1 朝食後 1 日おき 30 日分 → 15 日分

オ) 供給状況により、やむを得ない場合のみ、後発医薬品→先発医薬品への変更を可とする

4. その他

- ・薬剤部の情報は、当院薬剤部ホームページ『医療関係者の方へ』をご覧ください。随時情報公開していきますので適宜ご活用下さい。
- ・調剤過誤、副作用発生等の連絡、新規合意に関する問い合わせは、下記までお願いします。
連絡先 薬剤部 医薬品情報管理室 TEL 019-637-3111 (内線：415)

関係法令等

薬剤師法第 23 条 2 項

薬剤師は、処方せんに記載された医薬品につき、その処方せんを交付した医師、歯科医師又は獣医師の同意を得た場合を除くほか、これを変更して調剤してはならない。

薬剤師法第 24 条

薬剤師は、処方せん中に疑わしい点があるときは、その処方せんを交付した医師、歯科医師又は獣医師に問い合わせて、その疑わしい点を確認した後でなければ、これによって調剤してはならない。

保険医療機関及び保険医療養担当規則第 23 条 2 項

保険医は、その交付した処方せんに関し、保険薬剤師から疑義の照会があった場合には、これに適切に対応しなければならない。

2025 年 2 月 (第 1 版)